

# プロダクトガバナンスにおける 販売会社と資産運用会社の情報連携に関して

2024年5月24日

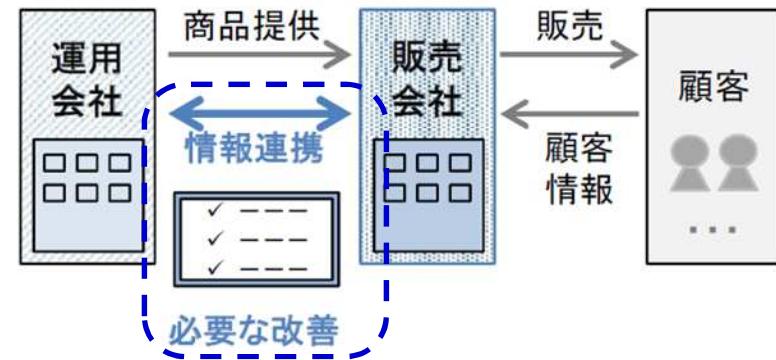
大和証券株式会社

常務取締役 プロダクト・ソリューション本部長 村田 勝安

# プロダクトガバナンスについて

## ■ プロダクトガバナンスに関する原則に係る論点

- ① プロダクトガバナンス体制の確保
- ② 商品組成時の対応（想定顧客・商品性）
- ③ 商品組成後の対応（想定顧客・商品性）**
- ④ 顧客に対する情報提供



### ギャップ分析結果を踏まえた対応

- ✓ 商品の提供方法の改善
- ✓ 顧客への商品説明資料の改善
- ✓ 販売会社営業員の理解を深めるための研修 等

... 販売会社と資産運用会社の間で、下記の観点等もふまえた情報連携が必要

- Proportionality
- 負担コスト（事務・システム）
- 法令面

# 当社の現状（現状と取り組み）

## 現状

### 当社取扱い

- ✓ ファンド本数：628本
- ✓ 運用会社数：35社 ※サブアドバイザーまで含めれば94社

### 運用会社との情報連携

- ✓ 運用会社各社とミーティング等を行っているがグループ内外問わず、定量データの提供は行っていない

## 直近の取り組み

### ■ 野村アセットマネジメントより、販売顧客の定量データ連携の要請を受ける

#### <対象ファンド>

「ノムラ・ファンド・セレクトブラックストーン・プライベート・エクイティ・ストラテジーズ 投信 米ドル建て」

- 管理会社：グローバル・ファンド・トラスト・カンパニー
- 保管会社／管理事務代行会社：ノムラ・バンク・ルクセンブルグSA
- 投資顧問会社：野村アセットマネジメント株式会社※

※野村アセットマネジメントは投資顧問会社の位置付けのファンドであるため、今回の情報提供にあたって、従来の契約の範囲外であり、別途、個別に秘密保持契約を締結中

### ■ 提供データ（予定）

4/24市場制度WGで野村アセットマネジメント株式会社から提示（右記）されたような、顧客カードの項目を中心に個人情報でなく一定の分類別での統計データとして情報提供予定

## （4/24 市場制度WG資料より）

プロダクトガバナンスにおける販売会社への働きかけの強化 (1) NOMURA  
ノムラ・ファンド・セレクトブラックストーン・プライベート・エクイティ・ストラテジーズ投信 米ドル建ての事例

一般的なお公衆投信とは異なるオルタナティブファンドについては、特定の顧客向けのファンドとして解約制限があることを許容できる投資家を想定している旨を明確化するとともに、販売会社から一定の顧客情報を受領して検証する方向

以下の書面にて販売会社に投資家モニタリングのために必要な情報提供を依頼

「想定顧客属性」  
この商品は、主として元本割れリスクを許容でき、中長期的な資産の成長を積極的を目指す方の方から、投資に関する知識や経験があり、説明を受けて高品質な商品を購入し、適切な運用を行うことを期待しています。当商品は実質的に低流動性資産に投資を行うため、換金（買戻し）に制限があります。お客様のご資産の一部として、投資目的などに適してご検討ください。

プロダクトガバナンスにおける販売会社への働きかけの強化 (2) NOMURA  
ノムラ・ファンド・セレクトブラックストーン・プライベート・エクイティ・ストラテジーズ投信 米ドル建ての事例

検証にあたっては顧客カードの情報などを中心に検討

個人情報取扱は取受せず、一定の分類別（年代や保有資産の万円以上等）で受領することを想定

項目	想定顧客	検証 (顧客カードの項目が中心)	業種別	個人：顧客カード 金融資産別
投資目的	中長期的な資産の成長を積極的に目指したい方	年齢(生年月日)、投資目的	個人	全金融資産、全預貯金、全債権、全株式
商品性の理解	投資経験があり、説明を受けて理解できる方	投資経験の有無、補助的に職業	個人	全預貯金、全債権、全株式
解約制限の許容	非流動的資産への投資であり、解約が出来ない可能性の理解	投資目的	個人	全預貯金、全債権、全株式
損失負担能力	ポートフォリオを一部としての投資を想定	資産の状況 当ファンドへの投資額	個人	全預貯金、全債権、全株式

個人法人別



項目	個人	法人
全金融資産	20000	10000
全預貯金	15000	8000
全債権	3000	1500
全株式	2000	1000

個人：顧客カード 取引経歴別

項目	個人	法人
全取引	10000	5000
全解約	5000	2500
全保有	5000	2500

# 当社の現状（投資信託 取り扱い開始後のガバナンス体制）

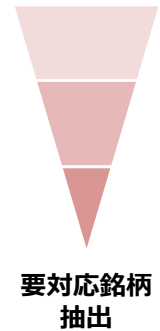
## Plan モニタリングデータ収集

定量データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リサーチ会社のファンド情報と当社の残高・販売情報を掛け合わせてデータベース化</li> </ul>	 <p>628銘柄</p>	<p>1銘柄当たり 約100項目</p>
×			
定性データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 営業員が収集したお客様のご意見・ご要望等の分析</li> <li>✓ 機械学習で効率的に分類</li> </ul>	 <p>python</p>	<p>約8,000件/月の 入力データから抽出</p>

※2024年3月実績

## Do モニタリング実施

対象	当社取扱全銘柄
周期	週次：定量モニタリング 月次：定量+定性
チェック項目	ファンドの運用実績や、特性を踏まえた購入顧客の属性分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トータルリターン利益顧客比率</li> <li>・シャープレシオ（短期～長期）</li> <li>・低流動性ファンドの資産比率 等</li> </ul>



## Action 改善へのアクション

### 改善に向けた具体的なアクション

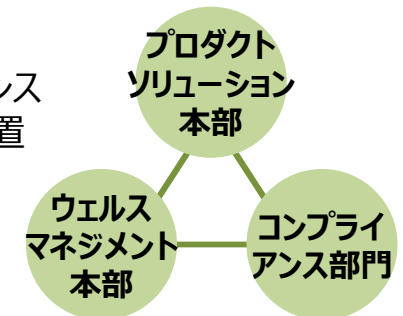
- ✓ 運用会社への顧客向け、社員向け資料の要請
- ✓ 保有者向けアフターケアウェビナー開催
- ✓ 提案時の留意事項の営業店向け周知
- ✓ ファンドの買付停止 等



## Check 対応策検討

### 月次ミーティング

- ✓ 部門横断の「プロダクトガバナンス協議会」の下部組織として設置
- ✓ オープンな議論を通じて具体的な対応策を検討



# 想定される留意点

データ 関係	①	対象ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 設計がシンプルなファンドから複雑なファンドまで様々なファンドが存在し、取り扱うファンド数が非常に多い会社も存在</li> <li>⇒ インデックス型（レバレッジ無し）は対象外とする等の商品性に応じた対象ファンドの絞り込みが検討できないか</li> </ul>
	②	データ収集・加工	<p>【業務運営面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個社の要請に基づいたデータ収集・加工は、作り手・受け手共に煩雑となる可能性</li> <li>✓ 対応する体制・人員についても、販社・資産運用会社ともに整備が必要</li> </ul> <p>【法令面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人情報保護法やファイアウォール規制に留意したデータ提供が必要</li> <li>⇒ ヒアリング項目統一/統計データ化により、法令面を準拠しつつ運営負荷を軽減できないか</li> </ul>
	③	提供方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メールによる会社間のデータ授受は業務負荷がかかり、情報漏洩リスクも高まるおそれ</li> <li>⇒ 提供フローや情報連携の頻度について統一し、出来る限りシンプルな体制に出来ないか</li> </ul>
契約	④	契約管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運用会社との秘密保持契約について、ファンドによっては従来運用会社と結んでいる基本契約で対応ができない可能性もあるため、新たな契約の締結が必要</li> </ul>
その他	⑤	公平な競争環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 小規模な運用会社ほど、情報連携の業務負荷は高まり、新規参入促進の障壁とならないよう留意が必要</li> </ul>

- ✓ 運用会社は、販売会社から実際に投資信託を購入した顧客に関するデータのフィードバックを受けることで、当初想定していた顧客層とのギャップ分析を行ない、購入顧客の属性に即した顧客向けの情報配信（アフターケア資料の作成や販売会社の営業員研修 等）の拡充に繋げることが出来る。
- ✓ 販売会社は、自社データだけでなく、他社におけるファンド購入顧客の属性比較・分析を行なうことが可能であれば、自社が想定していた顧客と実際の販売状況の検証をより精緻に行なうことが出来る。
- ✓ 一方で、顧客属性は販売会社によって異なることが想定され、運用会社から販売会社がフィードバックを受ける際には、単純な集計データの共有だけでなく、販売会社の顧客属性やビジネスモデルに応じたフィードバックが行なわれることが望ましい。